

注意事項

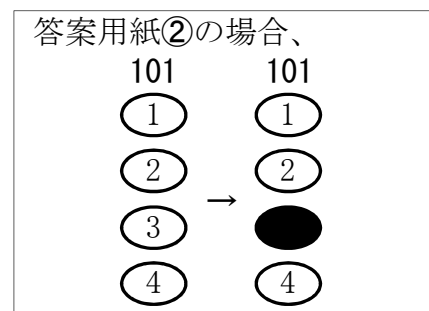
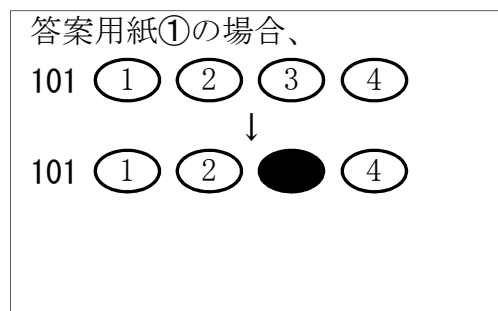
1. 試験問題の数は 55 問で解答時間は正味 1 時間 20 分である。
2. 解答方法は次のとおりである。
 - (1) (例 1)、(例 2) 及び(例 3)の問題では 1 から 4 までの 4 つの選択肢、もしくは 1 から 5 までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例 1)、(例 2) では 1 つ、(例 3) では 2 つ選び答案用紙に記入すること。
 なお、(例 1)、(例 2) の質問には 2 つ以上解答した場合は誤りとする。(例 3) の質問には、1 つ又は 3 つ以上解答した場合は誤りとする。

(例 1)

101 助産業務が行えるのはどれか。

1. 合格発表日以降
2. 合格証書受領日以降
3. 助産師籍登録日以降
4. 免許証受領日以降

正解は「3」であるから答案用紙の③をマークすればよい。



(例 2)

102 助産師国家試験の受験資格が規定されているのはどれか。

1. 医療法
2. 学校教育法
3. 母子保健法
4. 保健師助産師看護師法
5. 看護師等の人材確保の促進に関する法律

正解は「4」であるから答案用紙の ④ をマークすればよい。

答案用紙①の場合、					答案用紙②の場合、					
102	①	②	③	④	⑤	102	102	①	①	
			↓			②		②	②	
102	①	②	③	●	⑤	③	→	③	③	
						④		●	●	
						⑤		⑤	⑤	

(例 3)

103 助産師籍に登録されるのはどれか。2つ選べ。

1. 生年月日
2. 受験年月日
3. 卒業年月日
4. 就業年月日
5. 登録年月日

正解は「1」と「5」であるから答案用紙の ① と ⑤ をマークすればよい。

答案用紙①の場合、					答案用紙②の場合、					
103	①	②	③	④	⑤	103	103	①	●	
			↓			②		②	②	
103	●	②	③	④	●	③	→	③	③	
						④		④	④	
						⑤		●	●	

(2) 計算問題については、□に囲まれた丸数字に入る適切な数値をそれぞれ1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例4)の質問には丸数字1つにつき2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例4)

104 50床の病棟で入院患者は45人である。

この病棟の病床利用率を求めよ。

ただし、小数点以下の数値が得られた場合には、小数点以下第1位を四捨五入すること。

解答：□① □② %

- | | |
|---|---|
| ① | ② |
| 0 | 0 |
| 1 | 1 |
| 2 | 2 |
| 3 | 3 |
| 4 | 4 |
| 5 | 5 |
| 6 | 6 |
| 7 | 7 |
| 8 | 8 |
| 9 | 9 |

正解は「90」であるから①は答案用紙の(9)を②は(0)をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

①	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(●)
104	(●)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)

答案用紙②の場合、

①	②
(0)	(●)
(1)	(1)
(2)	(2)
(3)	(3)
(4)	(4)
(5)	(5)
(6)	(6)
(7)	(7)
(8)	(8)
(●)	(9)

1 受精卵が着床するときの卵割の状態です正しいのはどれか。

1. 4細胞期
2. 8細胞期
3. 桑実胚
4. 胚盤胞

2 羊水について正しいのはどれか。

1. pHは6～7である。
2. 妊娠初期には絨毛膜から分泌される。
3. 妊娠末期の羊水量は約1,000 mlである。
4. 妊娠中期から末期には主に胎児尿に由来する。

3 32歳の初産婦。妊娠39週0日。内診所見は、子宮口3 cm開大、展退度80%、Station -2、子宮頸管の硬度は軟、子宮口の位置は中央であった。

この産婦のBishop〈ビショップ〉スコアの点数はどれか。

1. 7点
2. 8点
3. 9点
4. 10点

4 哺乳開始後の正常新生児で活性が低い消化酵素はどれか。

1. 膵アミラーゼ
2. ラクターゼ
3. マルターゼ
4. ペプシン

5 産褥期の肺塞栓症のリスク因子で正しいのはどれか。

1. 睡眠不足
2. 頻回の授乳
3. 精神的な興奮
4. 長時間の安静臥床

6 オキシトシン 5 単位を 5 %ブドウ糖液 500 ml で希釈し、点滴静脈内注射を開始した。

120 ml/時間で滴下しているときのオキシトシンの 1 分間当たりの投与量で正しいのはどれか。

1. 1 ミリ単位
2. 5 ミリ単位
3. 10 ミリ単位
4. 20 ミリ単位

7 ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチンと子宮頸癌の説明で適切なのはどれか。

1. HPV ワクチンは1回の接種で予防効果がある。
2. 子宮頸癌のほぼ50%にハイリスク HPV が検出される。
3. HPV ワクチンを投与すれば子宮頸がん検診は不要である。
4. HPV ワクチンは HPV 16 型と HPV 18 型に対する感染予防効果がある。

8 18歳の初妊婦。未婚。妊娠24週0日。3回目の妊婦健康診査である。妊婦はパートナーのことを嫌悪しており、現在まったく会っていない。実家に住んでいるが、両親とも働いており、あまり話ができているという。妊婦は出産して子どもに会えることを楽しみにしている。

今回の妊婦健康診査時の対応で適切なのはどれか。

1. 入籍することを勧める。
2. 出生した児を乳児院に預けることを勧める。
3. 母親になるのでしっかりするように励ます。
4. 出産・育児について親に相談するように勧める。

9 産褥経過で正常から逸脱しているのはどれか。

1. 分娩直後の悪寒
2. 分娩後12時間の子宮底の高さ臍上1横指
3. 産褥3日の歩行時の恥骨部痛
4. 産褥10日の褐色の悪露

10 産褥 5 日の褥婦。児は NICU に入院している。両乳房の外側に乳汁のうっ滞があり、射乳は 3 ～ 5 本ある。

用手搾乳の方法について適切なのはどれか。

1. 軽く痛みを感じる範囲内で行う。
2. 搾乳前に乳頭を滅菌水で清拭する。
3. 固くなっている部分から搾乳する。
4. 搾乳時間は左右の乳房を合わせて 1 時間程度とする。

11 産褥 1 日。児は口唇裂と診断された。母親は、母児同室を拒み、授乳も助産師に依頼し、病室で何をするでもなくぼんやりと過ごしている。

このときの助産師の対応で適切なのはどれか。

1. 児を抱くように促す。
2. 母児同室を行うように促す。
3. 夫に至急連絡をとり母親の状況を伝える。
4. 児のことには触れずに母親の身体回復へのケアを行う。

12 Dubowitz 法について正しいのはどれか。

1. 発育障害の評価をする。
2. 出生直後に評価をする。
3. 外表所見の 1 つに頭髪による評価がある。
4. 神経学的所見の 1 つにスカーフ徴候による評価がある。

13 在胎 38 週 0 日、体重 2,800 g で出生した児。出生直後に 21 トリソミーにみられる特異な顔貌を認めた。出生後 30 分の観察にて、体温 36.7 °C、呼吸数 28/分、心拍数 134/分、整。第 1 排尿はない。

対応で適切なのはどれか。

1. 直接授乳は中止する。
2. 心雑音の有無を聴取する。
3. 出生後 2 時間の尿量を確認する。
4. 特徴的な啼泣の有無を観察する。

14 A 市にあるボランティア組織「ツインピアの会」は、多胎児の育児経験のある女性たちが多胎児を出産した親に対して、1 か月健康診査に同伴する活動を行っている。同市にある病院では、多胎児を出産した褥婦にこの組織を紹介していきたいと考えている。

連携をとるために病院が行うことで適切なのはどれか。

1. 「ツインピアの会」に年間活動報告の提出を指示する。
2. 同伴するボランティアとして院内の助産師を派遣する。
3. 「ツインピアの会」に同伴する児の出生時の状況を伝える。
4. 「ツインピアの会」の活動を院内の助産師に情報提供する。

15 初診時の妊婦健康診査の結果を示す。

助産所で管理可能と考えられるのはどれか。

1. 17 歳、初産婦。血圧 146/88 mmHg
2. 36 歳、1 回経産婦。前回、妊娠糖尿病。血圧 118/88 mmHg
3. 44 歳、2 回経産婦。前回、帝王切開分娩。血圧 122/70 mmHg
4. 25 歳、1 回経産婦。前回、経膈骨盤位分娩。血圧 120/72 mmHg

16 助産師自身の健康を守るための感染予防対策はどれか。

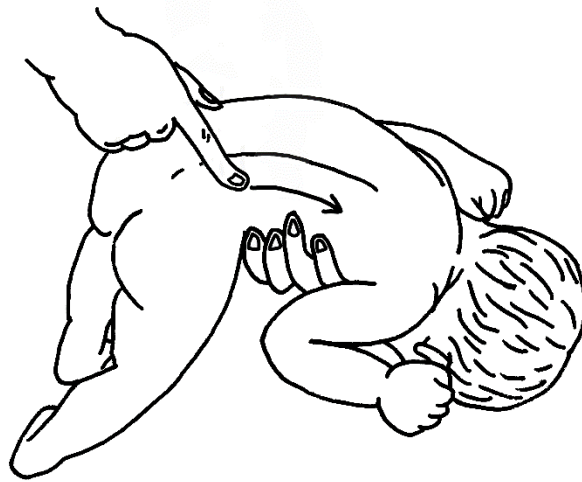
1. 正常新生児を抱きあげる前の手指消毒
2. 感染症のない妊婦をケアする時のマスクの着用
3. 分娩時に使用した器具を取り扱う際のゴム手袋の着用
4. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)保菌者をケアする時の予防衣の着用

17 母体保護法第 14 条に基づき人工妊娠中絶の適応となるのはどれか。

1. 妊婦が未成年である。
2. 妊婦が強く希望している。
3. 妊婦が妊娠中に風疹に罹患した。
4. 胎児が染色体異常であると診断された。
5. 重症妊娠悪阻により妊婦の全身状態が著しく悪化している。

18 図の手技で出現する反射はどれか。

1. 側弯反射
2. 交叉性伸展反射
3. 視性立ち直り反射
4. 非対称性緊張性頸反射
5. Landau〈ランドー〉反射



19 新生児の疾病とリスク因子との組合せで正しいのはどれか。

1. 先天性心疾患 ————— 羊水過多
2. 先天性食道閉鎖 ————— 羊水過少
3. 胎便関連性腸閉塞 ————— 過期妊娠
4. 低カルシウム血症 ————— 妊娠糖尿病
5. 呼吸窮迫症候群〈RDS〉 ————— 妊娠高血圧症候群

20 妊娠 41 週 0 日の初産婦。妊娠経過は順調であった。子宮口 2 cm 開大、展退度 70 % であるが分娩は開始していない。「陣痛が来るようにできることはしてみたい」と話す。

分娩を誘発する効果があるのはどれか。

1. 乳頭を刺激する。
2. 横になって休養する。
3. グリセリン浣腸をする。
4. 下腹部をマッサージする。
5. 高エネルギーの食事を摂取する。

21 在胎 30 週 0 日、体重 1,200 g で出生した児。生後 7 日で人工呼吸器を装着している。

この児に対するディベロップメンタルケアで適切なのはどれか。

1. 子宮内と同じような姿勢を保つ。
2. 室内の照度は明るく保つ。
3. 積極的に音刺激を与える。
4. 気管内吸引は定時に行う。
5. 清拭は深睡眠時に行う。

22 在胎 40 週 0 日で出生した児。経過は順調で生後 5 日に 2,700 g で退院した。生後 30 日、1 か月児健康診査に来院した。体重は 3,500 g。大泉門の大きさは 2 cm × 2 cm。児を引き起こすと、肘は軽く曲がり頭部がやや背屈している。児の便は便色カード 2 番で薄いクリーム色であった。黄疸が気になるという母親の訴えによって、経皮的黄疸計で測定したところ 15 mg/dl であった。

健康診査の結果で異常所見はどれか。

1. 体 重
2. 大泉門の大きさ
3. 引き起こし反射
4. 便の色
5. 経皮的黄疸計の測定結果

23 一般事業主に対し、仕事と家庭の両立に関する行動計画の策定を義務づけている法律はどれか。

1. 母子保健法
2. 労働基準法
3. 少子化社会対策基本法
4. 男女共同参画社会基本法
5. 次世代育成支援対策推進法

24 思春期女子の身体変化で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 初経の発来は体脂肪量に影響される。
2. 骨盤外計測値は14歳以降に急激に増加する。
3. 初経のころの原始卵胞数は出生時よりも少ない。
4. 年間身長増加量は初経後1年以内がピークである。
5. 初経のころの子宮の形態は体部に比べて頸部が長い。

25 妊娠初期においてhCG〈ヒト絨毛性ゴナドトロピン〉が関連しているのはどれか。2つ選べ。

1. 妊娠悪阻
2. 乳腺の分化
3. 妊娠性痒疹
4. 妊娠黄体の維持
5. 甲状腺機能低下

26 子癇発作の出現の予測に有用な徴候はどれか。2つ選べ。

1. 頭痛
2. 腰痛
3. 耳閉感
4. 上腹部痛
5. 手指の振戦

27 経口避妊薬の副効用はどれか。2つ選べ。

1. 過多月経の改善
2. 性感染症の予防
3. 月経困難症の軽減
4. 深部静脈血栓症の予防
5. 子宮頸癌発生率の低下

28 尿を用いた妊娠反応検査について正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 胞状奇胎では陽性である。
2. 異所性妊娠では陰性である。
3. プロゲステロンの濃度を測定している。
4. 子宮内胎児死亡の24時間後には陰性化している。
5. 妊娠の診断可能な時期は経膈超音波断層法より早い。

29 重症妊娠悪阻の管理中において注意すべき主な合併症はどれか。2つ選べ。

1. 肺塞栓症
2. 悪性高熱症
3. 高カリウム血症
4. 高ナトリウム血症
5. Wernicke〈ウェルニッケ〉脳症

30 破水の診断に用いられる物質はどれか。2つ選べ。

1. 癌胎児性フィブロネクチン
2. α -フェトプロテイン〈AFP〉
3. スフィンゴミエリン
4. エラスターゼ
5. レシチン

31 32歳の初産婦。妊娠経過は順調であった。妊娠39週0日、3,300gの児を正常分娩で出産した。分娩所要時間は11時間で、総出血量は300mlであった。児の出生後の状態は良好。妊娠中に早期母子接触について説明を受けて同意していた。

早期母子接触を実施する際の留意点で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 児に服を着せる。
2. 実施中は助産師が付き添う。
3. 6時間以上継続して実施する。
4. 母親の体位は水平位で実施する。
5. 児にパルスオキシメータを装着する。

32 播種性血管内血液凝固(DIC)を発生しやすい基礎疾患として産科 DIC スコアで加
点対象となっているのはどれか。2つ選べ。

1. 子 癇
2. 前置胎盤
3. 癒着胎盤
4. 子宮破裂
5. 羊水塞栓

33 予防接種を受ける子どもの親への説明で適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 「接種当日は入浴してはいけません」
2. 「接種当日は激しい運動は避けましょう」
3. 「副反応は接種後 24 時間以降にはみられません」
4. 「家庭で測定した体温で接種ができるか判断します」
5. 「不活化ワクチンを接種した後、1 週間以上あければ生ワクチンが接種でき
ます」

34 周産期医療情報センターについて正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 二次医療圏に1か所設置される。
2. 周産期救急情報システムを設置する。
3. 地域周産期母子医療センターに設置される。
4. 地域の周産期医療に関する情報を収集する。
5. 全国の周産期医療施設の病床の空床状況を把握する。

35 ある年の人口統計を表に示す。

出生数	1,200,000
妊娠満 12 週以後の死産数	20,000
妊娠満 22 週以後の死産数	3,000
早期新生児死亡数	1,000
妊産婦死亡数	20

周産期死亡率を求めよ。

ただし、小数点以下第 2 位を四捨五入すること。

解答： .

- | | |
|---|---|
| ① | ② |
| 0 | 0 |
| 1 | 1 |
| 2 | 2 |
| 3 | 3 |
| 4 | 4 |
| 5 | 5 |
| 6 | 6 |
| 7 | 7 |
| 8 | 8 |
| 9 | 9 |

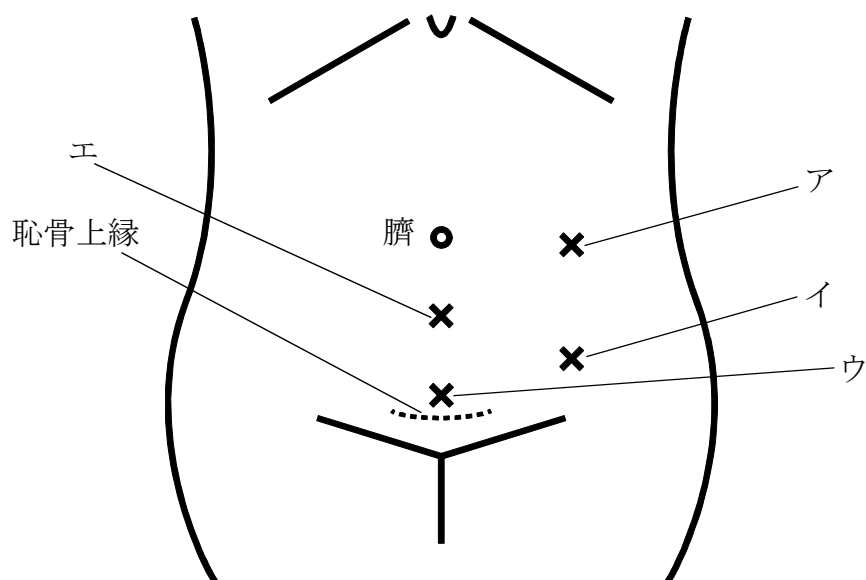
次の文を読み 36～38 の問いに答えよ。

20歳の女性。未婚。大学生。月経が不規則で、3か月の無月経と悪心を主訴として、パートナーと一緒に来院した。身長163 cm、体重48 kg。経膈超音波検査で胎児心拍が確認され、頭殿長〈CRL〉は50 mmであった。2人は妊娠を喜んでいる。内診時、左右の小陰唇に水疱が数個みられた。

36 助産師は親意識を促すために、妊婦とパートナーに「赤ちゃんの心臓の音を聴いてみますか」と聞いた。2人が希望したため、Doppler〈ドプラ〉法で胎児心音を聴取することにした。妊婦の腹部を図に示す。

プローブを当てる部位で適切なのはどれか。

1. ア
2. イ
3. ウ
4. エ



37 妊婦は「妊娠すると太ってはダメと友達から聞きました。できるだけこの体型を維持したいです」と言う。助産師は妊娠中の体重のコントロールについて説明した。

この妊婦の体重増加量の目安はどれか。

1. 5 kg 以上 7 kg 未満
2. 7 kg 以上 9 kg 未満
3. 9 kg 以上 12 kg 未満
4. 12 kg 以上 15 kg 未満

38 妊婦は外陰部がピリピリすると訴えた。

治療をした上で、今後の性生活での注意点で適切なのはどれか。

1. 特に注意することはない。
2. コンドームを使用する。
3. オーラルセックスはしてもよい。
4. 水疱が消えるまで性器での性交渉は中止する。

次の文を読み 39～41 の問いに答えよ。

53歳の女性。4回経妊3回経産婦。第1子は4,100gで、鉗子分娩であった。48歳で閉経。夫は50歳で健在。初診時、身長145cm、体重70kg。6か月前から夕方になると外陰部に違和感を感じるようになったと話す。また、トイレが近く、尿を我慢していると立ち上がった時に少し漏れるという。診察すると、膀胱が努責により膣口から2cm上方まで下垂してくる。

39 追加して確認する情報はどれか。

1. 性交渉の有無
2. 四肢冷感の有無
3. 習慣的飲酒の有無
4. ホットフラッシュの有無

40 この女性は保存的治療を希望したため、骨盤底筋体操を指導した。

追加で指導する内容で適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 塩分制限
2. 体重の減量
3. 排尿日誌の記載
4. 水分摂取の制限
5. 毎朝のジョギング

41 3 か月が経過した。「体操で膀胱が下がってくる感じは良くなったけれど、トイレが近いのが治りません。夜に何度もトイレに起きるので睡眠不足です」と訴えている。外来受診の際、排尿後の導尿で残尿は 80 ml であった。

この女性に対する治療として考慮されるのはどれか。

1. 膣閉鎖術
2. 抗コリン薬の内服
3. 定時的な自己導尿
4. 排尿時の下腹部圧迫

次の文を読み 42～44 の問いに答えよ。

29歳の初産婦。妊娠32週2日。これまでの妊娠経過は順調である。身長160 cm、体重61 kg(非妊時体重53 kg)。血圧136/72 mmHg。尿蛋白(-)、尿糖(-)。子宮底長27 cm。下肢に軽度の浮腫を認める。頭位で児背は母体の左側。胎児心拍数120 bpm。胎児推定体重1,600 g、AFIは20 cmであった。

42 現時点の胎児のアセスメントで正しいのはどれか。

1. 発育は正常である。
2. 第2胎向である。
3. 羊水過多である。
4. 胎児心拍数は少ない。

43 妊娠34週2日。妊婦健康診査を受診した。散歩中に子宮収縮が時々みられるが、少し休むと落ち着くという。体重62 kg。血圧134/76 mmHg。尿蛋白(-)、尿糖(-)。Hb 11.3 g/dl、Ht 34 %。子宮底長29 cm。下肢に軽度の浮腫を認める。内診所見で子宮口は閉鎖。経膈超音波検査で子宮頸管長は30 mmであった。

この時点の母体のアセスメントで適切なのはどれか。

1. 正常経過
2. 切迫早産
3. 軽症の貧血
4. 妊娠高血圧症候群

44 この妊婦から「最近、おなかが大きくなってきて夜眠れません。どうしたらよいでしょう」と質問があった。

説明で適切なのはどれか。

1. 運動を控えるように説明する。
2. 日中は起きているように勧める。
3. Sims〈シムス〉位で休むことを勧める。
4. 睡眠薬の処方を医師に依頼するように勧める。

次の文を読み 45～47 の問いに答えよ。

Aさん(40歳、初産婦)。妊娠38週2日。午後7時にAさんは電話で「午後4時からときどき子宮収縮がありました。午後6時から10分間隔で今も変わりません。2日前の妊婦健康診査で、子宮の出口は3cm開いていると言われました。出血、破水やいきみみたい感じはありません。B群溶連菌陽性と言われています」と落ち着いて話した。夫の立会い分娩の予定だが、夫はまだ帰宅していない。

45 Aさんから追加して確認すべき情報で最も適切なのはどれか。

1. 切迫早産入院の有無
2. 最後の排便時刻
3. 夕食摂取の有無
4. 夫の帰宅時刻
5. 胎動の有無

46 Aさんから「夫が仕事から帰宅するのを待ちたいのですが、どうしたらよいでしょう」と言われた。

電話での対応で適切なのはどれか。

1. 「すぐに来院してください」
2. 「破水したらもう一度電話をしてください」
3. 「夫の帰宅を待って一緒に来院してください」
4. 「1時間たっても陣痛が10分間隔なら来院してください」

47 その後Aさんは入院し、陣痛発来後8時間で、陣痛間欠5分、発作40秒となった。内診所見は、子宮口8cm開大、展退度80%、Station -1、子宮頸管の硬度は軟、子宮口の位置は前方であった。矢状縫合は第2斜径に一致、小泉門は10時方向、卵膜はなく、淡黄色の羊水の流出を確認した。胎児心拍数陣痛図の波形はレベル2。腰部痛を訴えている。

対応で最も適切なのはどれか。

1. 散歩するよう促す。
2. 仰臥位になるよう促す。
3. 四つん這いの体位になるよう促す。
4. 清潔なマットを敷き分娩介助の準備をする。
5. 胎児心拍数陣痛モニタリングを3時間後に実施する。

次の文を読み 48、49 の問いに答えよ。

37 歳の初産婦。妊娠経過は順調で、既往歴に特記すべきことはない。妊娠 40 週 5 日、自然に陣痛発来した。陣痛発来後 20 時間、内診所見で、子宮口全開大、展退度 100 %、Station +3。胎児心拍数陣痛図では、基線細変動の減少を伴う遷延一過性徐脈が出現した。その 30 分後、経膣分娩により 3,320 g の男児を出産した。児は Apgar 〈アプガー〉スコア 1 分後 6 点、5 分後 8 点、臍帯動脈血 pH 7.18 であった。

48 出血は、胎盤娩出前は特に多くなかったが、後血腫を伴う胎盤を娩出後も持続している。子宮収縮は良好である。

最も可能性が高いのはどれか。

1. 頸管裂傷
2. 子宮破裂
3. 弛緩出血
4. 常位胎盤早期剝離

49 胎盤娩出後 5 分、褥婦は顔面蒼白で冷汗がみられた。総出血量は 1,800 ml。呼吸数 20/分、脈拍 120/分、血圧 80/60 mmHg。ショックインデックスは 1.5 であった。対応で正しいのはどれか。

1. 血液検査の結果を待って輸血の要否を判断する。
2. 総出血量が 2,000 ml を超えたら輸血を開始する。
3. 収縮期血圧が 60 mmHg 以下になったら輸血を開始する。
4. 直ちに輸血を開始する。

次の文を読み 50～52 の問いに答えよ。

在胎 37 週 3 日、体重 2,890 g で出生した児。羊水混濁があり、出生直後に啼泣、四肢のチアノーゼ及び胎便がみられた。筋緊張は良好である。

50 最初に行う新生児への処置で適切なのはどれか。

1. 皮膚の羊水を乾いたタオルで拭き取る。
2. 母親の胸に直接新生児を抱かせる。
3. 口鼻腔吸引を行う。
4. 皮膚刺激を行う。

51 生後 2 日。新生児室のコットにいる児の体温測定を行った。皮膚温 38.0 °C、直腸温 37.4 °C であった。全身の皮膚色は良好。

対応で適切なのはどれか。

1. CRP 測定
2. クベース収容
3. 解熱薬の与薬
4. 衣類や掛け物の調節
5. 呼吸心拍モニター装着

52 生後 30 日、1 か月児健康診査に来院した。本日の体重は 4,150 g、母乳栄養である。児は生後 7 日に退院し、体重は 2,790 g であった。

母親の児に関する訴えのうち、医師の診察を必要とするのはどれか。

1. 「赤ちゃんのおっぱいから白い液が出ます」
2. 「頭や眉のところにカサカサした固まったものがあります」
3. 「授乳後、寝かせたら口の端からダラダラと母乳を出します」
4. 「昨日から口の中に白いミルクかすのようなものがあって取れません」

次の文を読み 53～55 の問いに答えよ。

34 歳の 1 回経産婦。妊娠 18 週まで喫煙していた。妊婦健康診査に来院しないことが 2 回あった。2012 年 10 月、妊娠 36 週 3 日に「6 時間ほど前から痛みを感じ、自宅で様子をみていたが、我慢できなくなった」と電話があり、助産師は来院を指示した。来院時、胎児心拍数陣痛図で心拍数 60 bpm の遷延一過性徐脈を認め、常位胎盤早期剝離の診断で緊急帝王切開術が行われた。児の体重は 2,860 g、Apgar〈アプガー〉スコアは 1 分後 2 点、5 分後 5 点で、NICU に入院した。

53 8 か月後、児は重度脳性麻痺の診断を受けた。母親は産科医療補償制度の申請をすることとした。

産科医療補償制度の申請可能時期として正しいのはどれか。

1. 2014 年の誕生日まで
2. 2017 年の誕生日まで
3. 2019 年の誕生日まで
4. 2022 年の誕生日まで

54 分娩した病院に産科医療補償制度の手続きのため来院した母親から「うちの子が脳性麻痺になった原因はこの制度で分かるのですか」と相談があった。

対応として最も適切なのはどれか。

1. 「そのような質問にはお答えできないことになっています」
2. 「補償するための制度で原因分析はしないのです」
3. 「ご家族には原因分析の結果が伝えられます」
4. 「原因分析の結果は公表されません」

55 この事例について産科医師と助産師がカンファレンスを開催した。今後の再発防止に向けて、妊婦への指導を徹底することになった。

強化する内容で最も適切なのはどれか。

1. 禁煙指導を徹底する。
2. 妊婦健康診査の定期的な受診を勧奨する。
3. 分かりやすく切迫早産の症状を説明する。
4. 気になる症状があるときはすぐに連絡するように説明する。

